

WORK®

MEISTER®



M1を履きこなす



ハコスカでマッチング

愛車をカッコ良く、他のクルマと差を付けるために欠かせないアルミホイール。リム幅、オフセットの選定から車高、フェンダーの作り込み具合で様々なスタイルとなるから、そのマッチングは奥深い。今回は16インチの“マイスターM1”をカッコ良く履きこなしたハコスカハードトップを紹介していくぞ



ブラック



マットカーボン

基本のディスクカラー 3種

シルバー

サイズ展開 5.5Jから11Jまで



WORKが掲げるカスタムオーダープランの1つ、“特殊P.C.D.”で4穴114.3のサイズ展開も可能なマイスターM1。高級感溢れるメッシュホイールで豊富なサイズラインナップがあり、リムアレンジにも対応した逸品だ

リムのWORKの3ピース マイスターM1の3ピースとハコスカ



国産・外車問わず70年代の旧車にもバッチリとキマる、王道デザインのマイスターM1。4穴車向けとしては16インチと17インチがラインナップされている (P.C.D.114.3はカスタムオーダー品)

WORK
HEISTER

M1を履きこなす

低扁平タイヤを履くと途端に気になり出すのが、タイヤとフェンダーアーチにできる隙間だ。ところが、ここで紹介する大石さんのハコスカは幅広いSHAPE製パーフェン独特の形状により、前後ともバランスよく仕上げられている。このパーフェンはタイヤの上表面と少し被るように、下方向にも張り出しているのが特徴だ



履く絶妙なWORKで

ハコスカに、王道のメツシユ、深リムという組み合わせ



サイズ

9.5J(-11) 16inch

ディスク

マットカーボン

リム

ブラッシュド



スピードフォルム製パーフェンと16インチ

大阪ソープのオリジナルパーフェンを前後に装着し16インチという大径サイズをツライチに収める。ブラッシュド加工で鈍く光るリムとマットカーボンのディスクが抜群のコンビ



サイズ

10J(-18) 16inch

ディスク

マットカーボン

リム

ブラッシュド



1972年式
スカイライン2000GT-X

車両データ

こちらのハコスカはパワーウィンドウ搭載グレードである2000GT-Xをベースに、SHAPE製スピードフォルムオーバークラウド、チンスポ、板ツバネを装着してGT-R仕様を个性的にアレンジ。絶妙な車高を見極めることで、大径サイズのマイスターM1をカッコ良く履きこなしている



外装もスピードフォルム流



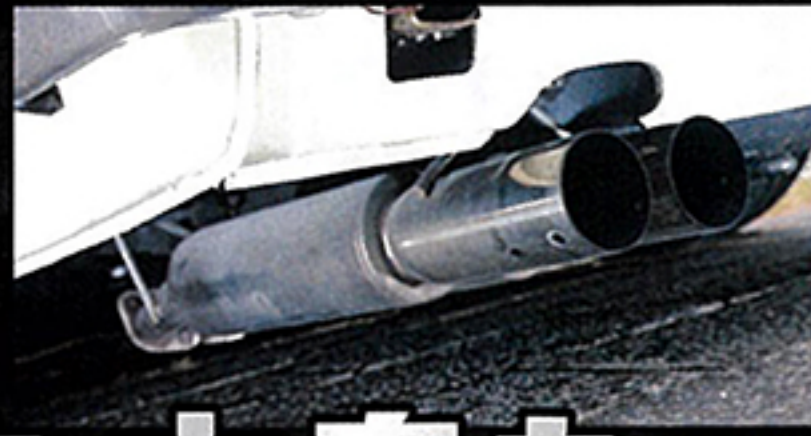
外装はクリーム系ホワイトのボディに、カーボンボンネット、カーボンパーフェンというシンプルなカラーリング。フェンダーミラーは、(SHAPE代表の)川内さんが作る車には、いつもこの色(オーナー談)というガンメタ仕上げ

車両オーナー

大石和則さん



以前のGワークスでスピードフォルムを紹介した記事から、再登場となる大石さんのハコスカ。地元の「ハコスカ先輩」のハコスカを見過ぎて13年前に購入したという、こちらのハコスカ。エンジンはフルチューンを搭載、外装をSHAPEで作りに上げて、ヒト味違う愛車に仕上げた。デュアル出しのマフラーも定番とは異なる砲弾型だ



WORK MASTER M1を履きこなす



16インチホイールの中に収まるブレーキも強烈。前はS13用社外6ポットキャリパー、ローターは前後DR30用を流用し、4輪ディスク化

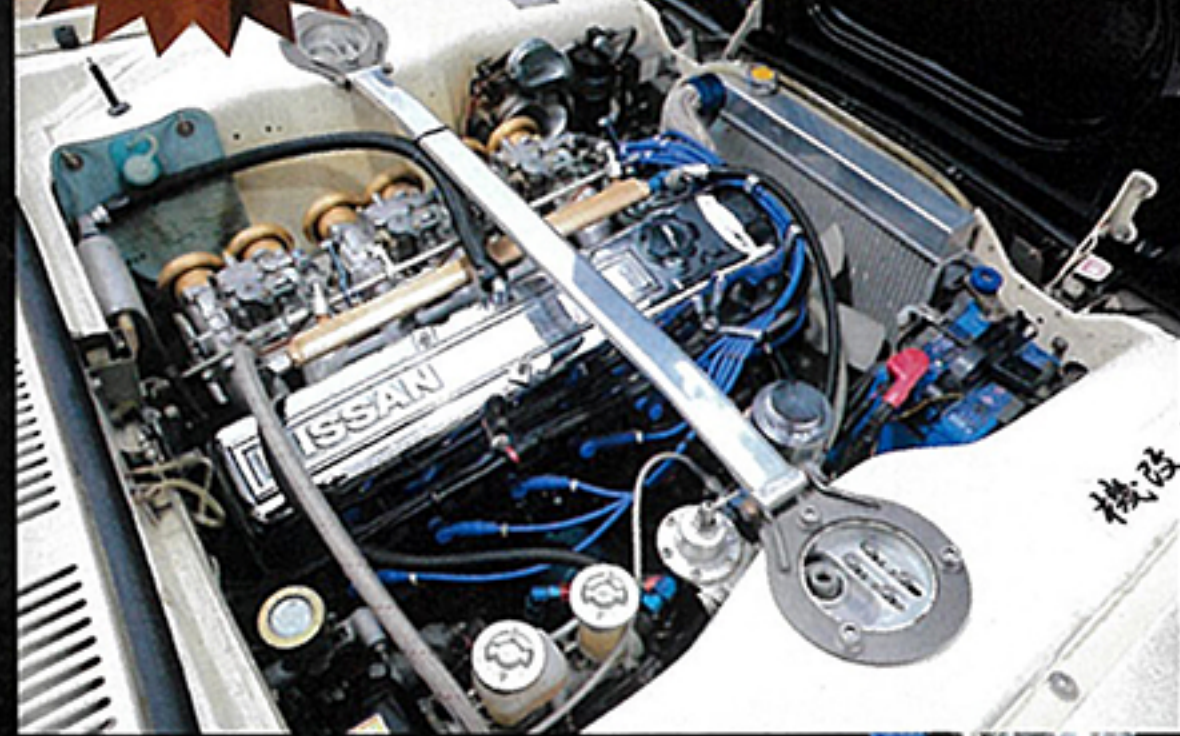
ホイールも、しかり。

外装も中身も

入念に作り込む



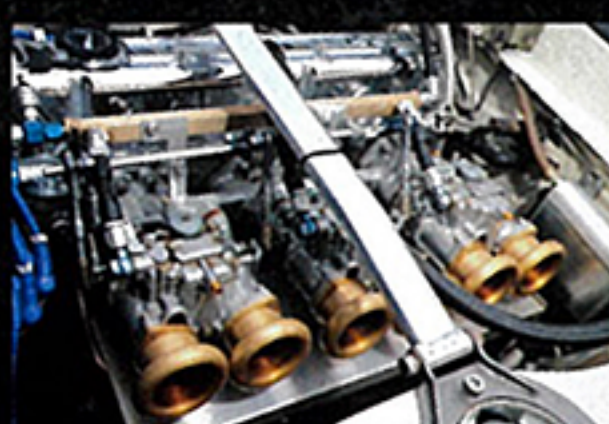
エンジンもスゴイ L28改3.2ℓ×SOLEX50



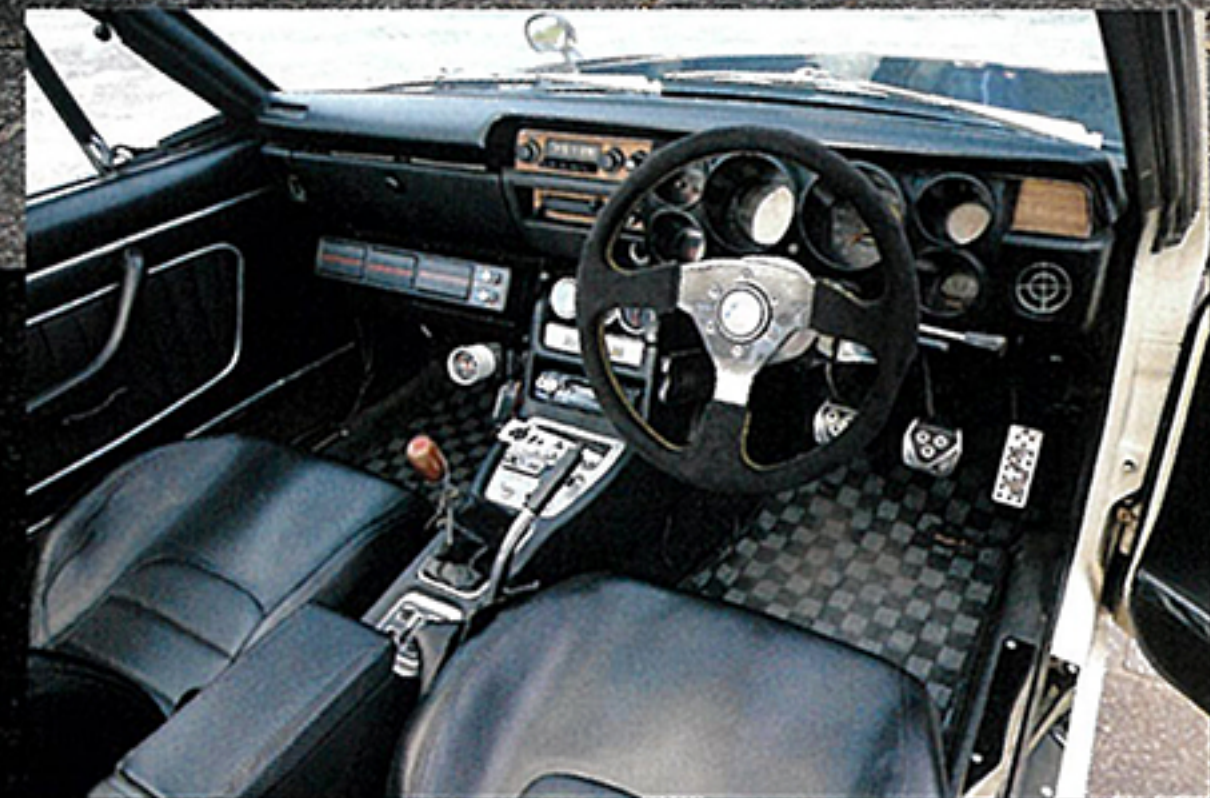
燃焼室アルゴン加工&容積合わせを施したフルチューンヘッドにニスモ80度カム、46/38ビッグバルブ、腰下には亀有89.5φピストン/断面コンロッド、LD28軽量加工クランクを組む3.2ℓ仕様



カールファンネルと合わせたゴールドアルマイトのフューエルデリバリーパイプ/インマニからの取り付けステーなど、ワンオフ加工が多い、凝ったエンジンルーム



メーターはDefiiのリンクメーターをフル装備。その他に燃圧計/空燃比計も装備。前席はGTRフルバケの表皮をアレンジしたラバーソウル製だ



フルチューンエンジンとスポーツ走行に必要な計器類を揃える一方、オーディオ、吊り下げ式のクーラーキットを装備する快適仕様でもある。ハンドルはナンバー7のカーボン製、M/Tは71C型を換装。後部には純正シートをキレイに残している

